お年玉プレゼント

当選者に贈らせて頂きました

福袋

熊本県：テッチさん

当選おめでとうございます。無事にお手元に届き、喜んで頂きました。
手書きでの「届いたよ」の写真も送って頂きありがとうございます。本当に嬉しかったです。（大名一同）

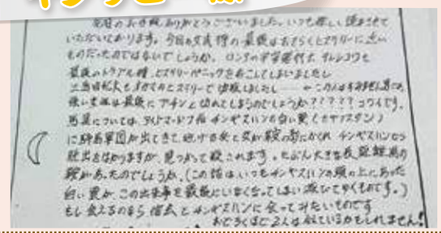
大阪府：ロバーとケンさん

甲斐甲斐しく足湯をしてくれる願いは、はかなくもついえ去ってしまいました。
よって、次のイメージは、いま人気の野口哲哉氏のアート「武者分類図鑑」の世界です。
”フットバスを使う戦場帰りの武者”です。
ついでに、あまりに心地よくて入り浸ってふやけた足の写真も添付しました。
感想は、極楽です。
追記）野口氏のアートを御覧になりましたか？
骨董、歴史、伝統を超えた現実世界とのミスマッチさがとても面白いです。
昔活用された物を骨董品で飾っとくだけでなく新しい命を吹込めたらいいなと思いました。
貴社の今後の御発展をお祈りしています。　（ロバーとケン）

当選おめでとうございます。感想ありがとうございます。
戦場で疲れた武者が本当に気持ちよさそうに入っているのが伝わってきます。
当時もきっと長い戦いの後、家に帰り嫁が足湯を作って待っててくれていたでしょうね。
ふやけた足の写真までも送ってくださるとは、粋ですねぇ。
ロバーとケンさんの極楽感が伝わってきます。
心温まる写真と、ご感想ありがとうございました。
（大名一同）

お客様のコメント

キノッピー様



コメント、いつもありがとうございます。
そうですね、鶴姫はヒステリーに近いものだったのでしょう。
全てを失くし、すべてを背負うという状況、私が同じ立場でもヒステリーを起こしていると思います。
ですが、自害は怖くてできなかったと思います。
チンギスハンの白い雲！
本当ですね、武田信玄の速さとチンギスハンの破壊力どちらが優れていたのでしょうか・・・
チンギスハンの頭の上の雲を武田信玄がいち早く見つけることができたなら・・・
公開処刑などしなければ、ずっと頭の上に雲がのっていたのでしょうか？
もし、二人に会えたら何を話してみたいですか？　（花本）

徳島県のK様

大和魂の記事を楽しみに読んでおります。
近いうちに大三島に行ってこようとおもいます。

いつも大和魂を読んで頂きありがとうございます。
大三島に、ぜひ遊びに来てください。
大山祇神社でパワーをもらい、海に囲まれているので美味しい魚を食べてゆっくりしていってください。大三島から、しまなみ海道を通って車で４０分位です。もし、時間があれば当社にもぜひ遊びに来てください。
いつでもお待ちしております。　（中堀）

有限会社 大名
ホームページ　http://daimyou.com/
ホームページリニューアルしました
広島県尾道市栗原町2-1 3F　Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp
TEL.0848-29-3936　FAX.0848-29-3937

届けますっ！大和魂　2015年6月 Vol.6

―経営理念―

有限会社大名は「届けますっ大和魂！」を合言葉に
日本の歴史、古美術を発信し
貴方（お客様）の趣味を応援する
タイムマシーン企業を目指します

―目次―

1遊漁船に乗って メバル釣に行きました ～島谷（しまたに）～
2語ります大和魂 ～中堀（なかぼり）～
3ハナエモンの夕～イムスリップ ～花本（はなもと）～
4お年玉プレゼント ～大名一同～
5お客様のコメント ～中堀（なかぼり）～

遊漁船に乗って メバル釣に行きました

こんにちは、島谷貴子（しまたにたかこ）です。今年も恒例の遊漁船に乗って、メバル釣に行きました。
去年は小ぶりなのを３０～４０匹釣ったのですが、今年は少し大き目のメバルが釣りたいなと船長さんにお願いしました。
船長「今年は、去年より、大きいのがええってようたけど。風が強いけぇ、ちぃと釣るのがむずかしいでぇ、じゃけぇ近場でも行って釣ってみようかぁ～」
皆「船長、お願いしまぁす」

今年も一番最初に釣上げたのは、中堀さん！
「おぃ、おいっ！今年もかい」去年も一番、今年も一番。
今年こそはと思って、大好きなビールも減らし集中していたのに・・・
「かぁ～悔しい」こうなったら飲むしかないでしょうと，ビールを手に取った瞬間、
竿の先が「ツンツン」やったぁ！きたぁ　ついに魚がきたぁ！
待望のメバル！少し小さめなのが釣れました。
その後何度か竿に当たりがきて、私は計５匹釣れました。
午前九時から午後三時まで釣りをし、一番多く釣ったのは、今年も
中堀さんでした。

帰りの船の中～
島谷「おっちゃん、どうしてこの仕事しとん？」
船長「海も魚も好きじゃし、こうやって皆とワイワイすることもすきじゃけんね。好きなことが仕事なんがえかろうが」
島谷「そうじゃね。おっちゃんの人を喜ばせようという気持ちがすごい伝わってくるわぁ。このカップラーメンを腹減るじゃろうゆうて買っといてくれるとことか、最高じゃわぁ。いつも、ほんとうにありがとうね」
社長もきっと、自分の好きな歴史・甲冑を仕事にしているから毎日イキイキしているんだなぁ
お客様にも、もっと伝わったらいいな、そして歴史やうんちくを語れる楽しい場所を作っていかんといけんなぁと考えさせられました。

港～
花本「もうちょっと釣りたかったです」
船長「そうじゃの～じゃが、風が強かったけどこんだけ釣れたらええほうで、まぁ、去年もゆうたけど、この時期はあんま釣れんけぇ、夏にキスでも釣りに行こうやっ言うたじゃろぅ」
花本「どうしても夏までは待てないんですよねぇ　海が僕を呼んでるんですよぅ～」
中堀・島谷「来年は、絶対夏まで我慢しょうやぁ」
島谷の心「来年こそは、一番早く、多く釣れますように・・・」

帰ってから～
刺身と煮付けにして美味しく頂きました。
自分で釣った魚は格別じゃわ！

メバルの煮付、うまそぉ～

お刺身にしました！

この度お世話になった和丸観光さんです。
和丸観光
広島県尾道市正徳町25-1 吉和活魚センター内
島谷さん
連絡先：0848-23-4128

大和魂 語ります

この度語らせて頂きます、中堀明美(なかぼりあけみ)です。
いつも大和魂を読んで頂き、誠にありがとうございます。
日本刀について語って欲しいと沢山の方からお声を頂いたので
今月号から、日本刀の“五箇伝”を連載して語らせて頂きます。

中心となった地域

刀は古墳時代以前から、また色々な地域で製作されていましたが、古刀期(～安土桃山時代まで)に造られた刀の作風、特徴を分けると5つの地域で造られていると分類されました。5つの地域には刀の材料も沢山あった事もあり、すぐれた名刀工師が次々と出現し中心となりました。
これらを「五箇伝(ごかでん)」と総称しました。
研ぎ師であり日本刀鑑定家でもある本阿弥家(ほんあみけ)はこれを「掟」(おきて)と呼びました。五箇伝の中でも時代、特徴、技術などで分類され色々な刀派(とうは)に分かれます。
今回は私の住む隣の県、岡山・備前伝について語らせて頂きます。

岡山	備前伝(びぜんでん)
奈良	大和伝(やまとでん)
京都	山城伝(やましろでん)
神奈川	相州伝(そうしゅうでん)
岐阜	美濃伝(みのでん)

▲五箇伝

備前伝の始まり

当時の刀の状態は
よく切れる刀 ➡ 硬い ➡ 折れやすい
折れにくい刀 ➡ 柔らかい ➡ 切れにくい

折れにくく、切れやすい刀を造る為に不可欠な材料が岡山には沢山ありました。
良質な砂鉄、水、木炭、その中でも中国山地で採れる赤目砂鉄(あこめさてつ:不純物の多く混ざった砂鉄、熱を何度加えてもボロボロになりにくい性質)を使って造った刀が折れにくく、切れやすい刀と評判になり備前で刀を造るようになっていきました。
刀工師も多く、刀工達はその時代の流行をうまく取り入れながら栄えていきました。
平安時代から鎌倉時代初期に造られた刀を古備前派(こびぜん)といいます。
刀工師である実成(さねなり:平安時代中期頃)の腕は優れた技術を持つと評判で、子である友成(ともなり:平安時代末期頃)と共に66代・一条天皇(いちじょうてんのう:986年～1011年)に度々呼び出され、刀剣造りを依頼された事がきっかけで平安時代中頃からが備前が有名になり、沢山の刀工が出現しました。

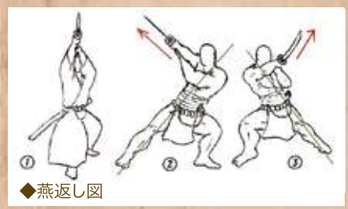
備前長船派(びぜんおさふね:鎌倉時代～)

古備前派であった近忠(ちかただ:鎌倉時代頃)の子、光忠(みつただ:鎌倉中期頃)が岡山県の邑久郡長船(おくぐんおさぶね)を拠点とし刀工していたことから、備前長船派と言います。作品は姿形・質も素晴らしく華やかな乱れ刃を焼いており、織田信長も光忠の刀を気に入り収集していたそうです。
光忠の子供である長光(ながみつ:鎌倉後期頃)は父の優れた技術を受け継ぎ、沢山の名刀を造りました。その中でも太刀:たち「大般若長光」(だいはんにゃながみつ)という作品は国宝にも指定されています。室町時代、有名な刀工の作品でもおよそ１００貫位の価格でしたが、大般若長光は６００貫(当時で約６千万位)の値が付き驚かれました。同時期に大般若経(お経の本)がなんと６００巻もあり驚かれていた事から、互いの６００貫＝６００冊と共通点から大般若長光と呼ばれました。
十三代目足利義輝(あしかがよしてる)から三善長慶(みよしながよし)→織田信長(おだのぶなが)→徳川家康(とくがいえやす)→奥平信昌(おくだいらのぶまさ)と伝わり、現在は東京国立博物館で所蔵されております。

◆大般若長光

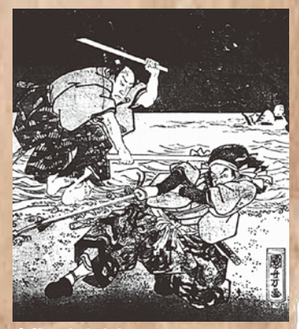
あの有名な佐々木小次郎(ささきこじろう)も長船派を愛用！！

宮本武蔵(みやもとむさし)と巌流島(がんりゅうじま)の決闘で小次郎が使用していた野太刀(のだち)は長光の刀で、刃長3尺(約1メートル)もあり通称「物干し竿」といわれています。
長くて振る事さえ難しい刀を振りこなし、その上燕返し(つばめがえし)と言う素早い剣術で戦いました。


◆燕返し図

◆備前刃

名刀を造り上げてきた、刀工師達は必死だったと思います。
身分の高い人に刀工を依頼されるのは名誉な事で、褒美も貰えるかもしれませんが万が一、もろい刀だった場合は命をとられる危険もあったかもしれませんね。相当な努力・修行をして、自分の命を削るような想いを込めて造っていたのではないでしょうか…だから今でも美しい姿で残っており、以前は命を奪う為の武器ですが、今では美術品と認められ、日本刀を愛する愛好家達が日本だけではなく、世界中にいるのでしょうね。
刀工師達の想いを感じながら刀を眺めてみては如何でしょうか。


◆佐々木小次郎

ハナエモンの タ～イムスリップ

伊達政宗編

今号のタ～イムスリップは伊達男（だておとこ）の語源になった、お洒落で、豪快な戦国大名・独眼竜（どくがんりゅう）こと伊達政宗（だてまさむね）です。
※ちなみに

伊達男の意味
1、ことさら侠気(おとこぎ)を示そうとすること。
2、人目をひくように、派手に振舞うこと。
3、しゃれた男。
例えば現在で言えば、伊達メガネとかもありますよね。

山形県米沢市に生まれた伊達政宗(1567-1636)は家臣一同からも才能を買われ、17歳で父・輝宗(てるむね)から家督を継ぎました。大きな敗戦もありましたが、わずか５年足らずで１５０万石近い領地を手に入れました。

２３歳で直面するデッカイ壁が、天下統一間近の豊臣秀吉！
秀吉から関東の大大名・北条氏(ほうじょう)を攻めるから参戦せよとの書状が届きましたが、色々いい訳をつけて拒んでいました。
秀吉の動員数を知り、参戦を決意し、秀吉のもとへ・・・
甲冑を着て、その上に真っ白な陣羽織(じんばおり)をはおり、髪も切り、死装束でやってきた政宗、さらに茶人の千利休(せんのりきゅう)がいることを知り、殺されるかも～てとこで、「茶の指導を！」と言った政宗。
決死のパフォーマンスのお陰で、秀吉に面白いやつだと感じさせ、命も取られず、領地こそ７２万石に(家督相続時くらい)に減らされましたが、鎧を下賜される政宗(笑)

政宗には面白いエピソードが沢山残っているのですが、スペースの都合上載せられません。二つだけ四コマ漫画にしてみましたので、ご覧ください。

相撲一本

このエピソードは、外様大名である政宗が、譜代大名の酒井忠勝にわざと負け、譜代大名のご機嫌を取っていた接待相撲と言われています。
しかし接待相撲にも関わらず、相手の顔にビンタをし相撲を取ろうなどという行為・・・本当に破天荒な政宗らしいですよね。

伊達男

このエピソードは、伊達男の由来となった話です。

もし伊達政宗が15年早く生まれていたら

17歳から約５年で広大な領土を手にした政宗が、東北を順調に制圧していくのは想像できます。
その後、越後(えちご)の上杉謙信(うえすぎけんしん)、甲斐(かい)の武田信玄(たけだしんげん)、相模(さがみ)の北条氏康(ほうじょううじやす)、常陸(ひたち)の佐竹義重(さたけよししげ)らと争ったかもと思うと面白いですよね。北条家とは父・輝宗時代には同盟を結んでいるので、北条と共闘して佐竹を滅ぼすでしょう。その後、再び北条と共闘し、上杉に挑むでしょう。
甲斐の虎と睨みあってる、越後の龍に横槍を入れる独眼竜。
流石の越後の龍もいっぱいいっぱいになりそうですが・・・。
でも、やっぱり京の都から遠すぎるので、天下は獲れない気がしますね～